

平成 2 7 年度

府中市公営企業会計決算審査意見書

府中市監査委員

28府監収第4号の2  
平成28年8月17日



府中市長  
高野 律 雄 様

府中市監査委員 夏 目 俊 一  
同 本 村 龍 史  
同 小 川 弘 純  
同 遠 田 宗 雄

平成27年度府中市公営企業会計決算審査意見書について

地方公営企業法第30条第2項の規定により、審査に付された平成27年度府中市公営企業会計決算について審査の結果、別紙のとおり意見を付します。

## 目 次

第 1	審査の対象	1 頁
第 2	審査の期間	1
第 3	審査の方法	1
第 4	審査の結果	1
第 5	決算のあらまし	2
1	業務の概要について	2
2	予算の執行状況について	4
(1)	収益的収入	4
(2)	収益的支出	4
(3)	資本的収入	4
(4)	資本的支出	4
(5)	一時借入金	5
(6)	議会の議決を経なければ流用することのできない経費	5
(7)	特例的収入及び支出	5
3	営業成績について	6
(1)	損益	6
(2)	剰余金計算書	7
(3)	剰余金処分計算書(案)	7
(4)	収益比率等	8
4	財政状態について	9
(1)	資産・負債・資本	9
(2)	財務比率等	10
第 6	むすび	11
資料	業務実績比較表	
	比較貸借対照表	
	比較損益計算書	
	比較キャッシュ・フロー計算書	
	経営分析比率比較表	

## 注記

- 1 文中及び各表中の金額は原則として円単位で表示した。
- 2 パーセンテージ間、又は指数間の単純差引はポイントで表した。
- 3 比率(%)は、原則として小数点以下第2位を四捨五入した。  
また、表中の率の「-」は、1,000%以上のものである。
- 4 「0.0」は、該当数字はあるが、表示単位未満のものである。
- 5 「-」は、該当数字のないものである。

# 平成 27 年度府中市公営企業会計決算審査意見書

## 第 1 審査の対象

平成 27 年度府中市競走事業会計決算

## 第 2 審査の期間

平成 28 年 6 月 8 日から平成 28 年 7 月 22 日まで

## 第 3 審査の方法

この審査にあたっては、市長から提出された上記決算に関わる決算書及び付属書類が、地方公営企業法及びその他関係法令に準拠して作成されているか、計数に誤りはないか、経営成績及び財政状態は適正に表示されているか、会計処理は関係法令等に従って的確に行われているか、事務事業が経済的かつ効果的に行われたか等に主眼をおき、関係諸帳簿及び証拠書類との照合並びに関係者からの説明聴取等、通常実施すべき審査及び必要と認めるその他の審査手続きを実施した。

## 第 4 審査の結果

審査に付された決算報告書及び財務諸表は、地方公営企業法及び同法施行令等に準拠して作成されており、決算の計数は関係諸帳簿及び証拠書類と照合した結果、誤りはないものと認められた。

なお、決算のあらましについては改めてその概要を述べるが、会計処理についてはおおむね適正と認められた。

## 第5 決算のあらまし

### 1 業務の概要について

府中市は、昭和30年からモーターボート競走事業を開催しており、その運営は一般会計とは独立して行われている。

競走事業では、売上金となる勝舟投票券収入のおおむね75%を勝舟投票券払戻金としての的中者に配当し、残りの約25%のうち、選手賞金や広報宣伝事業等の運営経費などを差し引いた残額を市の収益とし、一部を一般会計等に繰り出している。市では、この繰出金を原資として、公共施設や道路、下水道などの都市基盤施設の整備に幅広く活用してきた。しかし、近年は景気の停滞やレジャーの多様化などにより、競走事業の売上も低迷し、繰出金の確保が厳しい状況となっている。

平成27年度から、経営状況の的確な把握と分析を行い経営の改善を図るため、地方公営企業法第2条第3項に基づき同法の財務規程等を適用し、従前の地方自治法に基づく会計から公営企業会計に移行した。平成27年度決算審査が公営企業会計に移行して初めての決算審査となる。そのため、経営分析等で、前年度比較が行えない項目があることに留意されたい。

競走事業における業務実績は次のとおりである。

区 分		単位	平成27年度	平成26年度	対前年度増減	増減率(%)
開	催 日 数	日	186	186	0	0
舟	券 売 上 額	円	48,400,244,700	53,861,213,900	△ 5,460,969,200	△ 10.1
一	日 平 均 舟 券 売 上 額	円	260,216,369	289,576,419	△ 29,360,050	△ 10.1
利	用 者 数	人	9,649,603	9,059,455	590,148	6.5
一	日 平 均 利 用 者 数	人	51,879	48,706	3,173	6.5
一	人 当 たり 購 買 額	円	5,015	5,945	△ 930	△ 15.6
職 員 数	職 員 数	人	18	18	0	0
	臨 時 従 事 員 数	人	57	61	△ 4	△ 6.6

舟券売上額及び利用者数は次のとおりである。

(単位：円、人、%)

区 分	平成27年度	平成26年度	対前年度増減	増減率
舟 券 売 上 額	48,400,244,700	53,861,213,900	△ 5,460,969,200	△ 10.1
平 和 島	8,752,052,400	10,093,792,000	△ 1,341,739,600	△ 13.3
平 和 島 劇 場	2,299,800,200	2,366,943,800	△ 67,143,600	△ 2.8
ボ ー ト ピ ア 河 辺	435,893,900	463,484,400	△ 27,590,500	△ 6.0
ボ ー ト ピ ア 横 浜	1,510,337,700	1,692,930,100	△ 182,592,400	△ 10.8
ミ ニ ボ ー ト ピ ア 黒 石	133,066,300	147,137,100	△ 14,070,800	△ 9.6
オ ラ レ 上 越	134,796,100	141,851,400	△ 7,055,300	△ 5.0
電 話 投 票	14,704,991,300	15,779,248,500	△ 1,074,257,200	△ 6.8
協 力 場 外	20,429,306,800	23,175,826,600	△ 2,746,519,800	△ 11.9
利 用 者 数	9,649,603	9,059,455	590,148	6.5
平 和 島	606,294	699,729	△ 93,435	△ 13.4
平 和 島 劇 場	466,322	471,266	△ 4,944	△ 1.0
ボ ー ト ピ ア 河 辺	55,518	58,324	△ 2,806	△ 4.8
ボ ー ト ピ ア 横 浜	272,813	278,321	△ 5,508	△ 2.0
ミ ニ ボ ー ト ピ ア 黒 石	42,361	39,405	2,956	7.5
オ ラ レ 上 越	24,747	25,261	△ 514	△ 2.0
電 話 投 票	2,747,321	2,605,241	142,080	5.5
協 力 場 外	5,434,227	4,881,908	552,319	11.3

開催日数は、主催事業186日（一般競走174日、SG競走6日、GI競走6日）で、前年度と比較すると一般競走は6日の増、GI競走は6日の減となっており、開催日数は変わらない。なお、平成27年度は、「GI開設61周年記念競走」及び「総理大臣杯競走（SGボートレースクラシック）」を開催したほか、ボートレース業界初の試みとなった「ファン感謝3DaysBOATRACEバトルトーナメント」を開催している。

舟券売上額は、48,400,244,700円で、前年度と比較すると5,460,969,200円（10.1%）の減となっている。また、利用者数は、9,649,603人で、前年度と比較すると590,148人（6.5%）の増となっている。

## 2 予算の執行状況について（消費税及び地方消費税込表示である。）

### （1）収益的収入

収益的収入の決算状況は次のとおりである。

（単位：円、％）

科目	平成27年度				平成26年度			対前年度比	
	予算現額	決算額	構成比	執行率	決算額	構成比	執行率	増減額	増減率
1 営業収益	58,645,591,000	56,192,557,918	99.9	95.8					
2 営業外収益	66,783,000	65,014,983	0.1	97.4					
3 特別利益	0	0	-	-					
収益的収入合計	58,712,374,000	56,257,572,901	100	95.8					

収益的収入は、予算現額 58,712,374,000 円に対し、決算額は 56,257,572,901 円、執行率は 95.8% となっている。

### （2）収益的支出

収益的支出の決算状況は次のとおりである。

（単位：円、％）

科目	平成27年度				平成26年度			対前年度比	
	予算現額	決算額	構成比	執行率	決算額	構成比	執行率	増減額	増減率
1 営業費用	57,838,240,000	55,130,144,596	99.9	95.3					
2 営業外費用	5,705,000	2,012,102	0.0	35.3					
3 特別損失	6,558,000	6,558,000	0.1	100					
収益的支出合計	57,850,503,000	55,138,714,698	100	95.3					

収益的支出は、予算現額 57,850,503,000 円に対し、決算額は 55,138,714,698 円、執行率は 95.3% となっている。

### （3）資本的収入

資本的収入はなかった。

### （4）資本的支出

資本的支出の決算状況は次のとおりである。

（単位：円、％）

科目	平成27年度				平成26年度			対前年度比	
	予算現額	決算額	構成比	執行率	決算額	構成比	執行率	増減額	増減率
1 建設改良費	171,730,000	167,929,896	17.5	97.8					
2 投資	494,000,000	494,000,000	51.3	100					
3 利益剰余金繰出	300,000,000	300,000,000	31.2	100					
資本的支出合計	965,730,000	961,929,896	100	99.6					



資本的支出は、予算現額 965,730,000 円に対し、決算額は 961,929,896 円、執行率は 99.6%となっている。

また、資本的支出のうち、建設改良費の決算状況は次のとおりである。

(単位：円)

区 分	執行額	備考
施 設 整 備 費	22,680,000	平和島競走場立体駐車場昇降機設備改修工事
資 産 購 入 費	2,008,800	紙幣計算機、硬貨計算機
リ ー ス 債 務 支 払 費	143,241,096	自動発売機、自動発売払戻機ほか
合 計	167,929,896	

建設改良費は、予算現額 171,730,000 円に対し、決算額は 167,929,896 円、執行率は 97.8%となっている。

平成 27 年度は、平和島競走場立体駐車場昇降機設備改修工事を 6 月に着手し、10 月に完了している。

#### (5) 一時借入金

一時借入金については、限度額 10 億円に対して当年度中における借入はなかった。

#### (6) 議会の議決を経なければ流用することのできない経費

職員給与費及び交際費の執行状況は、次のとおりである。

(単位：円、%)

区 分	予算現額	決算額	執行率
職 員 給 与 費	152,665,000	145,722,427	95.5
交 際 費	800,000	40,000	5.0

職員給与費及び交際費のいずれも議会の議決の範囲内で執行されており、議会の議決を必要とする流用はなかった。

#### (7) 特例的収入及び支出

平成 27 年 4 月 1 日から競走事業会計に地方公営企業法の一部を適用したことに伴い、同法施行令第 4 条第 4 項の規定に基づき、平成 26 年度打ち切り決算による特例的収入及び支出の経理処理として、未収金 1,719,247,593 円の収入処理と未払金 2,112,935,429 円の支出処理を行った。

なお、特例的収入及び支出については、平成 27 年度のみ処理となる。

### 3 営業成績について

(1) 損益 (係数表示については消費税及び地方消費税抜表示である。)

損益の状況は次のとおりである。

(単位：円、%)

区 分		平成27年度	平成26年度	対前年度増減	増減率
総 収 益		56,248,756,517			
営 業 収 益 (A)		56,183,738,664			
開 催 収 益		49,291,669,000			
場 間 場 外 発 売 事 務 受 託 収 益		6,537,369,074			
そ の 他 営 業 収 益		354,700,590			
営 業 外 収 益 (B)		65,017,853			
受 取 利 息 及 び 配 当 金		3,499,735			
長 期 前 受 金 戻 入		61,515,248			
雑 収 益		2,870			
特 別 利 益 (C)		0			
そ の 他 特 別 利 益		0			
総 費 用		55,171,241,917			
営 業 費 用 (D)		54,310,774,074			
開 催 費		48,739,529,428			
場 間 場 外 発 売 事 務 受 託 費		5,074,020,467			
管 理 費		214,922,622			
減 価 償 却 費		280,816,457			
資 産 減 耗 費		1,485,100			
営 業 外 費 用 (E)		853,909,843			
支 払 利 息		338,426			
雑 支 出		853,571,417			
特 別 損 失 (F)		6,558,000			
そ の 他 特 別 損 失		6,558,000			
営 業 利 益 (G)	(A)-(D)	1,872,964,590			
経 常 利 益 (H)	(G)+(B)-(E)	1,084,072,600			
当 年 度 純 利 益 (I)	(H)+(C)-(F)	1,077,514,600			
前 年 度 繰 越 利 益 剰 余 金 (J)		0			
当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金 (I)+(J)		1,077,514,600			

総収益は 56,248,756,517 円となっている。

営業収益は 56,183,738,664 円で、総収益の 99.9%を占めている。営業収益の主なものは開催収益である。

営業外収益は、65,017,853 円で、総収益の 0.1%を占めている。営業外収益の主なものは長期前

受金戻入である。

総費用は 55,171,241,917 円となっている。

営業費用は 54,310,774,074 円で、総費用の 98.4%を占めている。営業費用の主なものは開催費である。

営業外費用は、853,909,843 円で、総費用の 1.5%を占めている。営業外費用の主なものは雑支出である。

特別損失は 6,558,000 円で、総費用の 0.1%を占めている。特別損失の内訳は、公営企業会計への移行に伴う平成 26 年度分の賞与引当金相当額の計上である。

営業収益から営業費用を差し引いた営業利益は 1,872,964,590 円となっている。営業利益に営業外収益を加え、営業外費用を差し引いた経常利益は 1,084,072,600 円となっている。経常利益に特別利益を加え、特別損失を差し引いた当年度純利益は 1,077,514,600 円となっている。

なお、前年度繰越利益剰余金はないため、当年度未処分利益剰余金は 1,077,514,600 円となっている。

## (2) 剰余金計算書

資本金の当年度期首残高は 4,467,321,884 円で、当年度中の増減はなく、当年度末残高は 4,467,321,884 円となっている。

資本剰余金の当年度期首残高は 0 円で、当年度中の増減はなく、当年度末残高は 0 円となっている。

利益剰余金の当年度期首残高は 2,508,000,000 円で、当年度純利益の 1,077,514,600 円を加え、当年度末残高は 3,585,514,600 円となっている。

## (3) 剰余金処分計算書(案)

剰余金の処分案については次のとおりである。

(単位：円)

区 分	資本金	資本剰余金	未処分利益剰余金
当 年 度 末 残 高	4,467,321,884	0	1,077,514,600
議 会 の 議 決 に よ る 処 分 額	0	0	△ 794,000,000
利 益 積 立 金	0	0	△ 492,000,000
建 設 改 良 積 立 金	0	0	△ 2,000,000
一 般 会 計 繰 出 金	0	0	△ 261,000,000
公 共 用 地 特 別 会 計 繰 出 金	0	0	△ 39,000,000
処 分 後 残 高	4,467,321,884	0	(繰越利益剰余金) 283,514,600

当年度未処分利益剰余金は 1,077,514,600 円で、予算に定めた利益剰余金の処分(予定処分)のとおり、利益積立金として競走事業運営調整基金へ 492,000,000 円、建設改良積立金として平和島モーターボート競走場駐車施設整備基金に 2,000,000 円を積み立て、一般会計へ 261,000,000 円、公共用地特別会計へ 39,000,000 円繰り出すこととしている。

翌年度繰越利益剰余金は 283,514,600 円となっている。

基金の現在高については次のとおりである。なお、基金については出納課が他の基金とあわせて一括管理しており、数値については府中市各会計歳入歳出決算及び基金の運用状況審査意見書からの再掲である。

(単位：円)

区 分	前年度末現在高	決算年度中増減高		決算年度末現在高
		増	減	
競走事業運営調整基金	1,008,000,000	492,000,000	0	1,500,000,000
平和島モーターボート競走場 駐車施設整備基金	1,500,000,000	2,000,000	0	1,502,000,000
合 計	2,508,000,000	494,000,000	0	3,002,000,000

公営企業会計に係る基金の決算年度末現在高は3,002,000,000円で、前年度末現在高と比較すると494,000,000円(19.7%)の増となっている。

一般会計等への繰出金は次のとおりである。

(単位：円、%)

区 分	平成27年度	平成26年度	対前年度増減	増減率
一般会計繰出金	261,000,000	100,000,000	161,000,000	161.0
公共用地特別会計繰出金	39,000,000	200,000,000	△161,000,000	△80.5
合 計	300,000,000	300,000,000	0	0

一般会計への繰出金は261,000,000円で、前年度実績と比較すると161,000,000円(161.0%)の増となっている。

公共用地特別会計への繰出金は39,000,000円で、前年度実績と比較すると161,000,000円(80.5%)の減となっている。

#### (4) 収支比率等

総収支比率、営業収支比率及び経常収支比率については次のとおりである。

(単位：%、ポイント)

区 分	平成27年度	平成26年度	対前年度増減
総 収 支 比 率	102.0	/	/
営 業 収 支 比 率	103.4		
経 常 収 支 比 率	102.0		

事業の収益性を示す指標として、総収支比率、営業収支比率、経常収支比率があり、収支比率が高いほど収益性が良いとされ、100%以上が望ましいとされる。

総収支比率は102.0%となっている。また、営業収支比率は103.4%となっている。経常収支比率は102.0%となっている。

#### 4 財政状態について

##### (1) 資産・負債・資本

資産・負債・資本の状況は次のとおりである。

(単位：円、%)

区 分	平成27年度	平成26年度	対前年度増減	増減率
資産の部	固 定 資 産	7,716,246,606		
	有 形 固 定 資 産	4,706,570,297		
	無 形 固 定 資 産	7,676,309		
	投 資 そ の 他 の 資 産	3,002,000,000		
	流 動 資 産	3,573,928,962		
	現 金 預 金	2,374,094,573		
	未 収 金	899,834,389		
	繰 出 金	300,000,000		
	資 産 合 計	11,290,175,568		
	負債・資本の部	固 定 負 債	338,980,069	
リ ー ス 債 務		338,980,069		
流 動 負 債		2,519,726,483		
リ ー ス 債 務		169,791,096		
未 払 金		2,285,430,220		
前 受 金		2,039,970		
引 当 金		8,211,000		
預 り 金		54,254,197		
繰 延 収 益		378,632,532		
長 期 前 受 金		440,147,780		
長 期 前 受 金 収 益 化 累 計		△ 61,515,248		
負 債 合 計		3,237,339,084		
資 本 金		4,467,321,884		
剰 余 金		3,585,514,600		
資 本 剰 余 金		0		
利 益 剰 余 金		3,585,514,600		
資 本 合 計		8,052,836,484		
負 債 資 本 合 計	11,290,175,568			

資産合計は11,290,175,568円となっている。

負債合計は3,237,339,084円、資本合計は8,052,836,484円で、負債資本合計は11,290,175,568円となっている。

## (2) 財務比率等

流動比率、当座比率、自己資本構成比率及び固定資産対長期資本比率の推移は、次のとおりである。

(単位：％、ポイント)

区 分	平成27年度	平成26年度	対前年度増減
流 動 比 率	141.8		
当 座 比 率	129.9		
自 己 資 本 構 成 比 率	71.3		
固 定 資 産 対 長 期 資 本 比 率	91.9		

短期流動性を示す指標として流動比率と当座比率があり、一般産業では流動比率は200%以上、当座比率は100%以上が望ましいとされる。なお、競走事業においては、支出の大半が、法定交付金及び納付金や各種委託料等、舟券売上に連動する経費であることから、必ずしも一般産業の数値が直接、競走事業にあてはまるものではない。

流動比率は141.8%となっている。また、当座比率は129.9%となっている。

長期健全性を示す指標として、自己資本構成比率と固定資産対長期資本比率があり、自己資本構成比率は70%以上、固定資産対長期資本比率は100%以下が望ましいとされる。

自己資本構成比率は71.3%となっている。また、固定資産対長期資本比率は91.9%となっている。

## 第6 むすび

### (1) 決算の状況

平成27年度の業務状況を見ると、自場開催レースの開催日数は186日であり、舟券売上額は48,400,244,700円、利用者数は9,649,603人で、前年度と比較すると舟券売上額は5,460,969,200円の減、利用者数は590,148人の増となっている。

次に平成27年度の損益状況を見ると、総収益は56,248,756,517円、総費用は55,171,241,917円で当年度未処分利益剰余金は1,077,514,600円となっている。

また、一般会計等への繰出しについては、一般会計へ261,000,000円、公共用地特別会計へ39,000,000円の繰出しを行っている。一般会計等への繰出しについては、平成23年度以降5年連続しての繰出しになっている。

### (2) 意見・要望

競走事業会計については、平成27年度から地方公営企業法に基づく公営企業会計を導入した。これは経営の効率化や経営意識の向上を図ることや、経営成績及び財政状態の的確な把握等を目的としたものである。大きなトラブルも無く初年度の決算を迎えたことについては職員の努力によるものと評価したい。

しかしながら、公営企業会計については、これまで職員が慣れ親しんできた地方自治法に基づく会計とは別の知識を必要とする。事業部においては、今後、人事異動等によって会計処理に混乱が生じることのないよう人事当局と連携した計画的な職員育成に努め、知識や技術、経営方針を確実に継承していただきたい。

公営企業会計の導入により、従来の特設会計に比べ経営に要する経費が明確となり、より適切な経営管理が可能となってくる。今後は、経営判断に重要な負担金等について、月割計算を徹底することで毎月の経営成績の実態をつかむとともに、予算と財務諸表とで消費税及び地方消費税の取扱いが異なることから、予算と決算に係る各書類の整合性には十分注意を払うなど、より適切な形での会計処理を進め、事業の利益向上につなげていただきたい。

また、協力場外や電話投票による発売など、営業努力によって競走事業会計全体としては売上げは伸びているものの、平和島本場の売上げや来場者数は減少傾向にあり、競走事業の先行きは依然として不透明である。SG競走等のビッグレースの誘致やSNS等を活用した魅力発信による新しい年齢層のファンの取り込みなど、引き続き平和島本場への来場者の呼び込みに努めていただきたい。